

産業観光施設の紹介

東邦ガス ガスエネルギー館

新しい観光のあり方“産業観光”が、中部圏において積極的に進められています。“産業観光”は、産業の内容を対象とする観光で、生活の中の商品・サービスが提供されるまでに、どのような歴史や技術があるのかを発見し、体験する知的好奇心にあふれた観光です。

具体的には、製造業の工場見学や、伝統産業の体験プログラム、企業博物館などがあげられます。こうした施設を訪ねる機会は、従来から社会見学や企業視察などがありましたが、特定の団体や目的に限らず、個人客や家族客などの一般観光客でも楽しめるよう門戸を広く開放していこうとするところに“産業観光”の特徴があります。

ここでは、中部の産業観光施設のひとつ、今年、3月にリニューアルオープンした東邦ガスのガスエネルギー館をご紹介します、

地球環境問題を重視したリニューアル

愛知県の知多半島北部は、伊勢湾に面して、火力発電所や液化天然ガス工場などのエネルギー関連施設が多数配置された中部圏の一大エネルギー供給基地です。東邦ガスのガスエネルギー館は、その知多半島北部の東海市に、1985年、天然ガスを中心としたエネルギーについての展示施設として開館しました。

開館以来、小・中学生の社会見学などを中心に、約70万人の来館者を集めていましたが、2006年3月、館のテーマを「地球温暖化とエネルギー」に一新、地球温暖化や、それを防止するための天然ガスの利用、さらに未来のエネルギーなどについて、楽しく学べる施設へと全面改装されました。

見て、触って 楽しく学べる体験型のミュージアム

リニューアルにあたっては、単に見るだけの展示ではなく、見学者が主体的に考えて、触って、動かす体験型の展示とすることに重点がおかれしました。メインフロアには、ゲームを楽しむ感覚で学べるように工夫された18の体験アイテムがあり、インタープリターと呼ばれる案内係や、興味・関心にあわせて用意されたテーマカードの助けを借りながら、見学者が自由に見学できるようになっています。

主な展示 - “燃える氷”メタンハイドレートの燃焼実験など -

(1) 実験ラボ

昨年の愛・地球博のガスパビリオンでも注目を集めた「燃える氷」と呼ばれる、未来のエネルギー「メタンハイドレート」の燃焼実験を行います。



“燃える氷”メタンハイドレートの実験

(2) まちを支える都市ガス

直径4mの名古屋市周辺の模型の中の、水族館、百貨店、空港などに、ターゲットスコープで照準をあわせると、その施設の紹介と使われているガスの設備を見ることができます。



名古屋市の模型とターゲットスコープ

(3) 温暖化テラリウム

120 インチ 3 面の大型スクリーンで見る、百年後の未来の子どもたちを主役とした物語によって、迫力ある映像で地球温暖化の仕組みが紹介されます。



(4) 燃料電池ラボ

燃料電池の概要を映像やパネルで紹介。実際に水素と酸素で作られた電気でもノを動かす実験もあります。



水素の化学反応で生まれた電気の実験

このほか、ハンバーガーやTシャツ、本など生活の中の商品が作られてから手元に届くまでのトータルエネルギー量を天秤ではかってみる「ボクのまわりのエネルギー」や、4枚のカードを選ぶ買い物ゲームで、省エネ活動の成果を杉の木の木の本数で競う「省エネショッピング」など、体験を取り入れた遊びの気分で、複雑な環境問題や先端技術の理解を促す、さまざまな展示物があります。



本が作られてから手元に届くまでのトータルエネルギーの量を天秤ではかる

日曜日も開館

従来は、開館は平日のみでしたが（第1日曜日は開館）、リニューアル後は、日曜日も開館し、個人や家族連れも来館できるようになりました。（要予約）

（施設概要）

住所 〒470-8501 愛知県東海市新宝町 507-2

開館時間 10：00～17：00（入館は16：00まで）

休館日 土曜、祝日、年末年始および特別に定める休館日

入館料 無料

予約方法 ホームページ（<http://www.tohogas.co.jp/gas-enekan/>）
もしくは電話受付（052-603-2527）

交通 （電車の場合）名鉄常滑線柴田駅下車送迎バスで10分

（市バスの場合）柴田バス下車送迎バスで10分

（車の場合）国道23号神宮I.C.から南へ約3km

公式サイト <http://www.tohogas.co.jp/gas-enekan/>

インタビュー

東邦ガス ガスエネルギー館

館長 玉木次郎氏



- リニューアルの特徴についてご紹介ください。

展示施設は、がらりと変わり、参加体験型の施設になりました。見学者が、触ってみたり、くぐってみたり、ひきだしてみたりといった、楽しい仕掛けがたくさんあります。伝えている内容には、新しい話題や、専門的な話題もあるのですが、ただ普通に見せるのではなく、楽しみながら体験的に理解してもらえるように工夫されていて、大人から子供まで、おもしろいと感じられる施設になっていると思います。また、ロゴマークやキャラクター、インタープリターのユニフォームも一新しました。

- 見学方法についてお聞かせください。

見学の流れは、まず映像ホールで映画を見ていただき、見学者に地球温暖化とはなんだろうという意識付けを行います。それから、テーマカードの使い方など見学方法のオリエンテーションを行った後、6階展示ホールを自由に見てもらい、最後に映像とお話でまとめをします。標準見学時間は校外学習の場合で120分、それ以外の場合は90分です。

リニューアル前は、フルアテンド型の案内方法を採用していました。つまり、案内係が、お客様を一方向的に説明しながらコースを回っていましたが、今回のリニューアルでは、最初と最後に集合していただく以外は、お客様が、自由に展示アイテムを体験していただけるようにしました。案内役のインタープリターは、主要な展示アイテムの周囲にいて、お客様が何かわからないことがあっ

た場合に手助けをしたり、興味にあわせて説明したりする、インタープリター型の案内方法になっています。これは、ただ一方的に説明されるよりも、自分たちで考えながら、双方向でコミュニケーションをして、能動的に見学していただくほうが、強く心に残り、理解が深くなると考えたためです。

- 見学に用いるテーマカードとはどのようなものですか？

テーマカードは、一般見学者用と、校外学習用があります。一般見学者用は、「地球と天然ガス」のテーマカードで、展示ホールにある 18 の展示アイテムのうち、10 アイテムを見ればわかりやすいというコースの組み立てを提案しています。そして、実際に各アイテムを見る際には、展示アイテムの近くにある「あれこれポスト」で、テーマカードのバーコードをチェックすると、どういう視点で見るとよいかのヒントが案内されます。

校外学習用には、「交通とエネルギー」「家のなかのエネルギー」など 8 種類のテーマカードがあり、それぞれの興味、関心にあわせて、テーマを選べるようになっています。



見学の手助けをするテーマカード

- 愛知万博にもガスパビリオンが出展されていましたが、ガスエネルギー館の展示と関連はあるのでしょうか？

燃料電池や、メタンハイドレードの実験など、ガスパビリオンでの展示方法・内容が、今回のリニューアルに継承されています。また、ガスパビリオンの展示物の一部は、名古屋市科学館に移設してありますので、ご覧いただけます。万博での展示は、大勢の方々に見ていただけるような工夫が凝らしてありましたが、こちらでは校外学習や子供会の見学が多いので、参加・体験できる展示に工夫してあります。

- 入場者についてお聞かせください。

リニューアル前の来館者数は、年間 3 万 4 ~ 5,000 人ほどでしたが、リニューアル後は、年間 4 万人を目標にしています。多くの方に見学していただきたいと思いますが、せっかくですから、地球温暖化とエネルギーについて、しっかり内容を理解してもらいたいですね。ガスエネルギー館での体験を通し、子供達をはじめ、多くの方々にガスのファンになっていただければと思っています。

校外学習では地域の小学校にご利用いただいておりますが、地元の東海市、知多市、大府市の小学校ではほとんど、毎年当館を利用していただいております。この知多半島は、LNG 基地、製造所があり、当社の拠点ともいえる地域ですから、そこに住む子供たちに、地元の産業やエネルギーのことを理解してもらいたいです。また、当社の供給エリアは、合併によって、岐阜、岡崎、三重と広がりましたので、今後、そちらの地域のお客様にも利用していただきたいですね。

来館者は、学校、子供会、それから年に 5 回開催する環境イベントへの入場者が、それぞれ 3 分の 1 です。リニューアル後は日曜開館になりましたので、ご家族連れなど、一般のお客様が増えています。日曜日も、事前予約をしていただき、1 日に 3 回ある一般見学者用の時間帯に来ていただければ、実験や映像などがスムーズに見学できますので、是非、前日までに予約をお願いします。

- 周辺の観光施設との連携はあるのでしょうか。

産業観光施設は、単独で充分楽しめる施設ばかりですが、複数の周辺施設と連携することによって、広域的に地域の魅力を P R できることになります。

当地域でも、毎年、夏休みの期間を中心に、知多半島周辺の産業観光施設の 6 館共同で、スタンプラリー「六感シゲキツアー」を開催しています。当館と、盛田「味の館」、有松・鳴海絞会館、世界のタイル博物館、かわら美術館、博物館「酢の里」が参加しており、子供たちが、地場産業や自分たちの生活への関心を高めるよい機会になっています。